



[チケット] S席 5,000円 A席 4,000円 B席 3,000円

25歳以下の方はS席、A席各席種1,000円割引。ご入場時に年齢確認のできる身分証をご提示いただく場合がございます。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。※出演者が1階席の通路を歩く演出があります。B席からは見えにくい場合がございますので、あらかじめご了承ください。※やむを得ない事情により、出演者・演目が変更になる場合がございます。※演奏会中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはいたしません。※感染症拡大の状況により、今後、収容人数が制限された場合は、座席数を制限して販売する場合がございます。※ご来館の際は新型コロナウイルス感染予防にご協力ください。

みぐるメンバーズ先行発売

●インターネット購入のみ 12月9日(火)10:00～12月11日(金)23:59
※みぐるメンバーズ(無料)は当館ホームページからご入会いただけます。

一般発売

●電話・インターネット:12月12日(土)10:00～ ●窓口:12月13日(日)10:00～

その他プレイガイド

●チケットぴあ <https://t.pia.jp> [Pコード190-901] ●イープラス <https://eplus.jp>

お問い合わせ

●やまぎん県民ホールチケットデスク:023-664-2204(休館日を除く10:00～19:00)
●窓口:ホール1階事務室(休館日を除く10:00～19:00)
●インターネット:<https://yamagata-bunka.jp>(24時間)

託児のご案内(事前予約制) 対象年齢:生後6ヶ月～就学前 料金:1時間500円
申し込み締め切り:2021年2月25日(木) ご予約・お問い合わせ:やまぎん県民ホール TEL:023-664-2220

関連企画

声に触れよう!(ワークショップ) 共催:山形県総合文化芸術館オープニング事業等実行委員会

2021年2月7日(日)14:00/料金:1,500円/会場:やまぎん県民ホールスタジオ2/受付:2021年1月9日(土)10:00～ 電話(023-664-2204)にて受付
講師:宮内康乃(作曲家・つむぎね主宰)
《海霧讃歎》の作曲家・宮内康乃によるワークショップ。誰もが持つ身近な楽器「声」の響きを体感する。

声明ガイド(講座) 共催:山形県総合文化芸術館オープニング事業等実行委員会

2021年2月21日(日)14:00/料金:1,500円/会場:やまぎん県民ホールスタジオ1/受付:2021年1月9日(土)10:00～ 電話(023-664-2204)にて受付
講師:田村博巳(演出家・国立劇場調査養成部長)、新井弘順(真言声明・宝玉院住職)
「声明」を舞台芸術作品として構成・演出してきた田村博巳と、国内外での声明公演に数多く参加する新井弘順(真言声明・宝玉院住職)が、声明の伝統と現代の可能性を語る。

佐藤慧写真展

2021年2月27日(土)～3月14日(日)/会場:やまぎん県民ホール1階通路/料金:入場無料
《海霧讃歎》のテキストである和歌の作者のご子息・佐藤慧(フォトジャーナリスト・ライター)による写真展。
東日本大震災から10年の歩みを伝える。

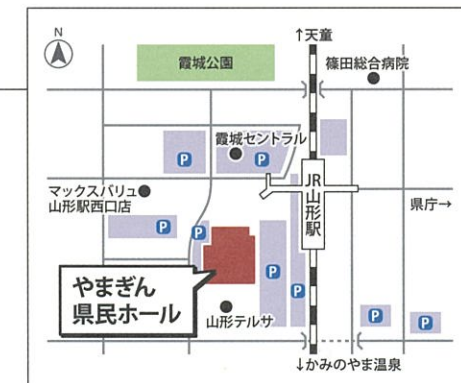
<関連企画ご来場の皆様へ>感染症対策にご協力をお願いいたします。
・マスクの着用、手洗い、消毒液のご利用をお願いいたします。・咳やくしゃみをする際に口元を覆う「咳エチケット」にご協力ください。
・咳、のどの痛み、だるさ、発熱などの体調不良を感じる場合には、ご来場をお控えください。

※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、公演が中止・変更になる場合があります。
最新情報はやまぎん県民ホールホームページをご覧ください。
※写真展では、東日本大震災の写真なども展示される予定ですので、ご注意ください。

やまぎん県民ホール

〒990-0828 山形県山形市双葉町1-2-38
TEL:023-664-2220(開館時間:9:00～22:00) FAX:023-664-2209
ホームページ <https://yamagata-bunka.jp>

【休館日】毎週火曜日(祝日の場合は直後の平日) および年末年始(12月29日～1月3日)
※敷地内の「県民へばな駐車場」(有料366台)は数に限りがありますので、公共交通機関及び近隣の有料駐車場もあわせてご利用ください。
※駐車場は大変混み合います。時間に余裕をもってご来場ください。



JR山形駅西口徒歩1分

祈りの声
奏でる声

花びらは散っても

花は散らない

総勢30名の僧侶の「声」が重なり合い
生み出される神秘の響きが慰めと希望となることを願います



四箇法要「花びらは散っても花は散らない」附 宮内康乃作曲《海霧讃歎》他

出演 声明の会・千年の聲 [七聲会(天台声明)、迦陵頻伽声明研究会(真言声明)]

構成・演出田村博巳

やまぎん県民ホール 2021年3月6日(土)14:00開演(13:00開場)

主催:山形県総合文化芸術館 指定管理者 みぐるやまがた 後援:山形県 制作協力:特定非営利活動法人 魁文舎



山形文化振興基金助成事業

声明の歴史と継承

もともと声明は、古代インドの学問のひとつ「言葉の学問」を指していました。一方中国や朝鮮では聖歌を意味する梵唄と呼んでいましたが、日本ではそれらが一緒になり、鎌倉時代初期から「声明」という言葉が使用されるようになってきました。日本において声明は能や浄瑠璃、落語など、日本の古典芸能のルーツにもなっています。

声明は仏教とともにインドから中国へ、そして6世紀中ごろに中国から日本へと伝播しました。日本における声明のもっとも古い記録として残っているものは、なんと奈良・東大寺の大仏開眼供養での法要。752年のできごとです。千人を超える大衆が参列し、唄、散華、梵音、錫杖の四箇法要が国家を挙げて盛大に行われたことが『東大寺要録』に明記されています。1472年には、現存する年紀の明らかな印刷楽譜としては世界最古の『声明集』が高野山で刊行され、声明の普及がはかられました。

祈りの声 奏でる聲

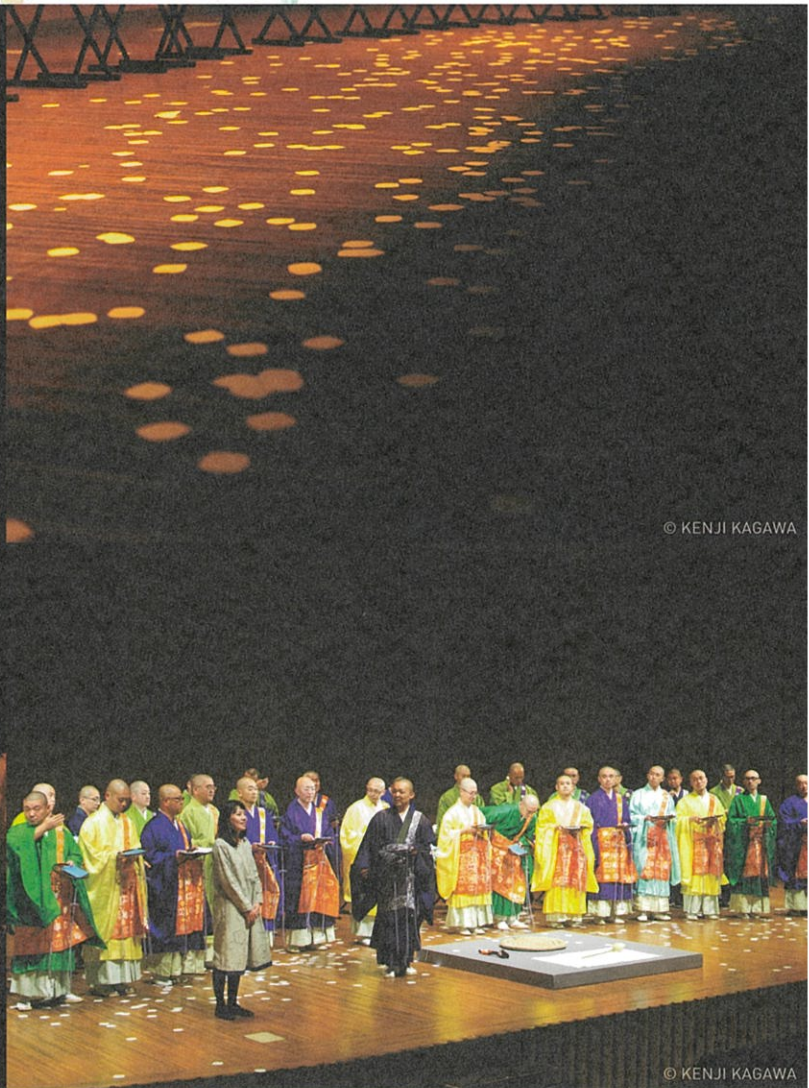
僧侶が唱えるお経に旋律が付いた「聲明」は、安寧や平和、また鎮魂を祈る声の芸術です。

本公演で唱えられる、仏の教えから導かれた四箇法要「唄」「散華」「梵音」「錫杖」は、死者である仏との対話によって成立しており、おのずから生者のこころの支えとなっていることに気が付きます。

そして、中心部に宮内康乃さんが作曲した『海霧讃歎』を据え、1200年の時間を融合し現代に生まれた聲明曲が、人々の不安やこころの苦しみを癒すような、祈りの響きを奏でます。

出演は、「声明」の二大潮流を成す真言宗・天台宗の宗派を越えて結成された、「声明の会・千年の聲」。

誰もがこころに不安を持っている今、平穩を祈る声の波を体感し、奏でられる想いに浸ってみてください。



© KENJI KAGAWA



海霧に

とけて我が身も

ただよはむ

川面をのぼり

大地をつつみ

© MATHRAX

© KENJI KAGAWA

曲目

- 唄
- 散華
- 梵音
- 『海霧讃歎』2012
- 錫杖
- 後唄
- 合殺
- 般若心経
- 三句念仏・甲念仏
- 『委嘱新作』2020
- (本公演委嘱・初演)

声明の会・千年の聲「七聲会(天台声明) 迦陵頻伽聲明研究会(真言声明)」

1200年の伝統を誇る日本の音楽の貴重な財産である「声明」。その伝統の継承と発展を目的に、1997年、日本の声明の二大潮流を成す真言宗・天台宗の指導者が宗派を越え「声明四人の会」を結成。後、名称を「声明の会・千年の聲」と改める。98年から2016年まで東京・青山スパイラルホールで毎年定期公演を開催し、古典作品の紹介と優れた作曲家に委嘱する新作声明を多数発表する。14年には9・11テロ鎮魂の曲「存亡の秋」を、NYを始めとするアメリカ3都市で巡演し大きな感動を呼んだ。声明のもつ伝統の深さと現代への可能性を追求し今日に至る。CDリリースに「阿吽の音」「存亡の秋」(鳥養潮作曲)、「財」ピクチャー伝統文化振興財団)がある。

宮内康乃(作曲家)



© KENJI KAGAWA

東京学芸大学G類音楽科作曲専攻卒業。IAMSメディア表現研究科(修士)修了。人間の呼吸や身体といった根源的な要素から響きを紡ぎ出していく独自の作曲法にて、主宰する音楽パフォーマンスグループ「つむぎね」での活動をはじめ、声明、邦楽や、ガムランなどアジアベースの新しい表現の創作や、声のワークショップ活動を国内外で多数展開している。

田村博巳(演出家)



慶應義塾大学文学部社会学科卒業。国立劇場調査養成部長、静岡音楽館AOI企画会議委員。民俗芸能、雅楽、声明(仏教音楽)を中心に日本の伝統芸能公演を企画制作し、民俗儀礼や口頭伝承の研究に立脚した創作を舞台芸術作品として構成・演出する。また、古典芸能の保存・継承とともに、作曲家等と協同して伝統の素材を現在の視点でとらえた意欲的作品を数々発表している。